

すやすや
すくすく



子どもの姿・発達過程

- 誕生後、母体内から外界への急激な環境の変化に適応し、著しい発達が見られる。
- 首がすわり、手足の動きが活発になり、その後、寝返り、腹ばいなど全身の動きが活発になる。
- 視覚、聴覚などの感覚の発達はめざましく、泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで自分の欲求を表現し、これに応答的に関わる特定の大人との間に情緒的なきずなが形成される。

特に1歳未満の子どもにおいては、養護と教育が一体的に行われ、保育者との穏やかな関わりのもとで子どもが何かをしようとするのが大切である。

ねらい
● 養護
● 教育

- 一人ひとりの子どもの
- 一人ひとりの子どもの
- 個人差に応じて授乳を
- 安心できる環境のもと
- 笑ったり、泣いたりする

生活リズムを大切にして、食事、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。
状態に応じてスキンシップを十分に取りながら心身ともに快適な状態をつくり、情緒の安定を図る。
行い、離乳を進めて、健やかな発育・発達を促す。
で聞く、見る、触るなど感覚の働きが豊かになるようにする。
子どもの状態にやさしく応え、発声に応答しながら喃語を育む。

みんなとともに育つ子ども

のびやかでゆたかな心をもつ子ども

おもい、考え、行動する子ども

内容

健やかに伸び伸びと育つ

- 抱いて微笑みかけられたり、やさしく言
- ゆったりした見守りの中で安心して過ごす。
- ミルク以外の味やスプーンから飲むこと
- 整えられた環境の中で安心して眠る。
- おむつが汚れたら取り替えてもらい、心
- 授乳、食事の前後は、やさしく声をかけら
- 拭いてもらい、心地よさを感じる。
- 縦抱きで抱かれたり、ひざの曲げ伸ばし、
- 者に援助されて体位を変え、遊びを楽しむ。

葉をかけてもらい、
に慣れる。
地よさを感じる。
れながら顔や手を
腹ばいなどを保育

身近な人と気持ちが通じ合う

- 泣き声や喃語をやさしく受け止めてもら
- や応答を通じて、身近な人と関わる心地よ
- 生活や遊びの中で自分の身近な人の存
- の気持ちを表す。

い、温かい語りかけ
さを感じる。
在に気づき、親しみ

身近なものに関わり感性が育つ

- 個々の興味をもったものに応答的に対応
 - 野に入る玩具や自然物など、身の回りのも
 - 好奇心をもつ。
 - 生活や遊びの中でさまざまなものに触
 - り、匂いなどに気づき、感覚の働きを豊かに
- ※下線は保育者の関わり

してもらう中で、視
のに対する興味や
れ、音、形、色、手触
する。

環境構成 ● 援助

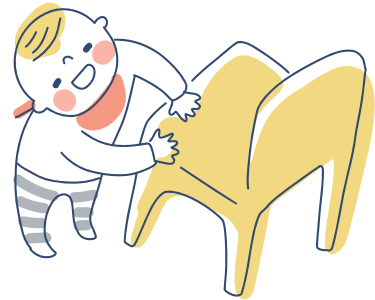
- 保育室内の環境は安全・衛生に配慮し、落ち着いた雰囲気の中で生活し、安心して過ごせるようにする。
- 子どもの成育歴や生活の実態を把握し、一人ひとりに合った日課をつくる。
- 個人差に応じて授乳を行い、離乳を進める。
- ● 採光や温度などに留意し落ち着いた雰囲気の中で睡眠が十分取れるようにし、呼吸の状態を見たり体に触れるなど睡眠中も様子を観察する。
- おむつ交換などを通して、清潔になることの心地よさを感じられるようにする。
- 子どものプライバシーを尊重し、おむつ交換や着脱の際には、ついたてを利用するなど、周りから見えないように配慮する。
- 首のすわり、寝返り、腹ばいなど、体を動かす機会を十分に確保し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう音の鳴る玩具や色彩豊かな吊り玩具などを用意し環境を整える。
- 子どもの多様な感情を受け止め、安心できる特定の保育者などが、一人ひとりに応じた適切な援助を繰り返し行う。
- 体の動きや表情、発声、喃語などをやさしく受け止め、愛情をもって関わる。
- 子どもの目を見て笑顔で豊かにゆっくりと語りかけ、やさしく穏やかな気持ちで応える。
- 物をつかんだり、なめたり、いろいろな行動ができるよう玩具を整えたり遊びを取り入れたりし、感覚機能を豊かにしていく。
- 生活や遊びの中でガラガラや布玩具や自然物などさまざまなものに触れ、音、形、色、手触り、匂いなどに気づき、五感を十分に働かせ、感覚が豊かになるような環境を用意する。

家庭との連携
地域との関わり

食事、排泄、睡眠や健康状態など、家庭と密に連携を取り合い、安定した生
日々の会話や連絡ノートで子どもの様子をこまめに知らせ、子どもの成長を
育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支えながら、子ど
わらべうたなどの触れ合い遊びを通して、人と触れ合う心地よさを感じ、安
家族や身近な人に見守られたり、声をかけられたりする中で、豊かな生活を

活リズムで過ごせるようにする。②
共有して、信頼関係を築いていく。②
もに話しかけたり、あやしたり、スキンシップを取ることの大切さを伝えていく。③
心感や親しみの気持ちを育む。(あ) (い)
送る。(う)

※数字①～④は全体的な計画の「家庭との連携」を具体的に表したものです。
※ひらがな(あ)～(お)は全体的な計画の「地域との関わり」を具体的に表したものです。

のびのび
ぐんぐん

- 食事、睡眠などの生活リズムの感覚が芽生える。
- 食事は、離乳食から幼児食に向けて徐々に移行する。
- 座る、はう、立つ、伝い歩きといった運動機能が発達すること及び腕や手足を意図的に動かせるようになることにより、周囲の人やものに興味を示し、探索活動が活発になる。
- 特定の大人との応答的な関わりにより、情緒的なきずなが深まり、あやしてもらうと喜ぶなどやり取りが盛んになる一方で、人見知りをするようになる。
- 身近な大人との関係の中で、自分の意思や欲求を身振り等で伝えようとし、大人から自分に向けられた気持ちや簡単な言葉が分かるようになる。

特に1歳未満の子どもにおいては、養護と教育が一体的に行われ、保育者との穏やかな関わりのもとで子どもが何かをしようとするのが大切である。

ねらい

- 養護
- 教育

- 一人ひとりの子どもの
- 子どもの欲求に丁寧に
- 安心できる保育者との
- 喃語や片言にやさしく

生活リズムを大切にして、食事、睡眠、排泄などの生理的欲求を満たし生命の保持と生活の安定を図る。応答しながら情緒の安定を図り、特定の人との深い信頼関係を築いていく。

関係の中で、座る、はう、立つ、歩くなどを経験できるようにし、外界に対する好奇心や興味を育てる。ゆったりとした気持ちで応え、伝えようとする気持ちを育てる。

内容

健やかに伸び伸びと育つ

- 抱いて微笑みかけられたり、やさしく言葉ゆったりした見守りの中で安心して過ごす。
- 和やかな雰囲気の中で食べる喜びや楽しんで食べようとする。
- 寝返り、お座り、はいはい、つかまり立ち、びの中で体を動かし、自ら体を動かそうとする。

をかけてもらい、
さを味わい、進ん
伝い歩きなど遊
る意欲が育つ。

身近な人と気持ちが通じ合う

- やさしく受容的な関わりの中で、自分を肯定生える。
- 保育者による語りかけや歌いかけ、発語や答を通じて、言葉の理解や発語の意欲が育
- 体の動きや仕草や表情、発声、喃語などをすることで、外界に自らはたらきかけようとする。

する気持ちが芽
喃語などへの応
つ。
やさしく受容され
る。

身近なものと関わり感性が育つ

- 保育者にゆったりと見守られ、玩具や身のぶ様子を合わせて声をかけてもらいながら、に楽しむ。
 - 玩具や身の回りの物を、握る、つかむ、つまむ、など、手や指を使って遊ぶ。
 - 保育者と一緒にさまざまな色彩や形のもる。
 - 保育者のあやし遊びに機嫌よく応じ、歌やて手足や体を動かして楽しむ。
- ※下線は保育者の関わり

回りのもので遊
一人遊びを十分
たたく、引っ張る
の、絵本などを見
リズムに合わせ

環境構成 ● 援助

- 一人ひとりに合った日課を繰り返す中で、生活リズムが安定し、少し先のことが分かり安心して過ごせるようにする。
- 個人差に応じて授乳や離乳を進めていく中で、さまざまな食品に少しずつ慣れ、食べることを楽しめるようにする。
- 発育に応じて遊びの中で安全に体を動かすスペースを十分に確保したり、トンネル、マットの山、すべり台など体を動かすための環境を用意し、自ら体を動かそうとする意欲が育つようにする。
- 保育者が名前を呼んだり、玩具などで誘ったり、そばでして見せるなどして、はう、歩くなどの遊ぼうとする意欲を育てる。

- 子どもの多様な感情を受け止め、安心できる特定の保育者などが、一人ひとりに応じた適切な援助を繰り返し行う。
- 人見知り、不安、甘え、恐れ、怒りなどの感情の表れを理解し受け入れ、子ども自身が安定できるようにする。

- 喃語や身振りなど子どもからのサインを見逃さず、笑顔で穏やかに一語一語ゆったりとした言葉がけで語りかけることで、言葉の理解や発語の意欲を育てる。
- 生活や遊びの中で、ガラガラや布玩具や自然物などさまざまなものに触れ、音、形、色、手触り、匂いなどに気付き、五感を十分に働かせ、感覚が豊かになるような環境を用意する。
- 見る、触れる、探索するなど身近な環境に自分から関わられるように、生活用具、さまざまな手づくり玩具、絵本などを用意する。
- 一人遊びの行動範囲が広がり、いろいろな物に触ったり、なめたりするので、危険なものは取り除いて探索活動を十分に保障する。友達や周りへの興味、関心、しようとする意欲を育てる。

家庭との連携
地域との関わり

食事、排泄、睡眠や健康状態など、家庭と密に連携を取り合い、安定した生
日々の会話や連絡ノートで子どもの様子をこまめに知らせ、子どもの成長を
育児の楽しさや大変さなど、保護者の気持ちに寄り添い、支えながら、子ど
わらべうたなどの触れ合い遊びを通して、身近な人と触れ合う心地よさを
家族や身近な人に見守られたり、声をかけられたりする中で、豊かな生活を

活リズムで過ごせるようにする。②
共有して、信頼関係を築いていく。②
もに話しかけたり、あやしたり、スキンシップを取ることの大切さを伝えていく。③
感じ、安心感や親しみの気持ちを育む。(あ) (い)
送る。(う)

※数字①～④は全体的な計画の「家庭との連携」を具体的に表したものです。

※ひらがな(あ)～(お)は全体的な計画の「地域との関わり」を具体的に表したものです。

子どもとSDGs【0歳児】



生理的欲求を
満たしてもらい
安心して過ごす



毎日の生活の中で、食べることの喜びや楽しさを味わったり、安心して眠

ることを大切にしています。豊かな乳幼児期を過ごすことで、基本的な生活習慣が身に付き「生きる力」につながります。



伸び伸びと
体を動かす

遊びの中でははいはいやつかまり立ち、伝い歩きをすることで、自ら体を動かそうとする意欲が育ちます。健康な体づくりを行うことは、子どもの未来の財産となります。

0歳児の子どもも、さまざまな場面で思いを表現します。一人ひとりの思いが温かく保育者に受け止められることで、安心して自分の思いを表現できるようになります。この積み重ねは、自分で考え行動していく礎となります。



身近な人に
親しみの気持ちを感じる

生理的欲求を受け止められ、愛情を込めて関わってもらうことで、愛着関係が築かれ、身近な人と気持ちが通じ合うようになっていきます。愛着関係を基盤に安心して生活をしたり、遊んだりするこ

とで心も体も健康に育ちます。「愛されている」「大切にされている」と感じることで、自己肯定感が育まれ、周りの人やものへ自ら関わろうとする意欲へとつながります。乳児期は、感性を育む基盤となる時期です。丁寧にその芽生えを育むことが大切です。



玩具や絵本、
自然物に触れて
遊ぶ



生活や遊びの中で玩具や絵本、自然物などに触れられるようさまざまな環境を用意しています。子どもたちが、感覚を十分に働かせ、身近なものに関わることで学びに向かう力や感性が育っていくことを大切にしています。